

免震サプレックス施工要領書（金属製MB-HYシステム）

注意点

「設置場所と納入品に相違無いことをご確認下さい」

1. 建物側、地盤側の固定架台を取り付けて下さい。
2. 配管を固定架台に取り付けし、取付面間、芯間寸法が設計寸法どおりか確認下さい。

	許容芯ずれ	許容面間誤差
MB-HYシステム	±5mm (排水勾配分を除く)	±5mm

3. 免震サプレックスバンドを所定の面間寸法に合わせて取り付け下さい。
特に指定の無い場合は二重管のパイプの太い方を下流側に取り付け下さい。
4. フランジをボルト、ナットで固定してください。

固定架台は出来るだけ免震継手の直近に設置願います

左表の誤差範囲内に収まるように配管の施工、芯出をお願いします。
排水勾配は4度以内で配管して下さい。

接続配管はSGPまたは継手の反力値に応じた強度を有する材料を使用下さい。

輸送の都合上、面間寸法を最短面間に縮めた状態で納入します。
現地で所定の寸法に合せて取付下さい。

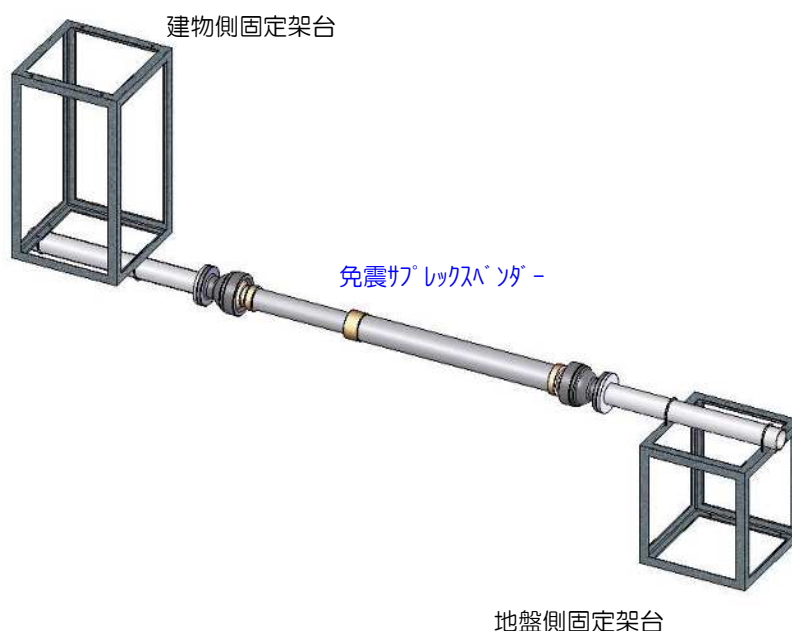
ボルトの頭を継手側にして均等に締め付けて下さい。
片締めにならないように十分注意下さい。

【特記事項】

金属製MB-HYシステムは基本的に大気開放排水用途の製品ですが、下記の事項を考慮頂ければ圧送用途で使用することも可能です。

- ① 継手前後を強固に固定下さい。
管内圧力により軸方向に推力が発生しますので、継手の前後を強固に固定願います。
- ② 開放型配管ラインで使用下さい。
地震作動時に管内の体積が変動しますので、開放型の配管ラインで使用頂くか、管内の体積変動を逃がせる配管システムでご使用下さい。(膨張タンクの設置など)

施工例



注意事項

◎ボール部に作業中異物が入らないように注意下さい。砂などが入った場合は掃除機などで除去下さい。

◎水圧試験、満水試験時の水張りはゆっくりと時間を掛けてエアーを十分に除去して、規定の圧まで徐々に圧を掛けて下さい。エアーの排出が十分でないと、継手を破損することがあります。また、内部圧力が最高使用圧力以上にならない様にして下さい。

また、水圧検査の際には伸縮部が伸び出しますので、十分な支持固定を実施してください。

◎継手を面間調整などで伸縮させるとき、パッキンの面圧の関係上動きにくい場合があります。フランジの片側を固定して反対側のフランジをボルト等で引張り少し動かすと容易に伸縮するようになります。

◎伸縮部は容易に伸び出す場合があります。継手吊り上げ時のバランスに十分注意して作業下さい。

MB-HY(HT)タイプを圧力配管に使用する場合の注意点について

MB-HY(HT)タイプを圧力配管に使用する場合は以下のことに留意必要がある。

①継手前後を強固に固定して下さい。

- 継手は二重管の構造となっている事から、継手内に水が満水になると伸び性能分だけ伸びようとする動きが働きます。いわゆる継手の推力が常時発生するので継手の前後を強固に固定して下さい。
- 下記に水圧10kgf/cm²時の推力を示す。

呼び径	継手推力＝水圧×断面積	水圧10kgf/cm ² 時の推力
25A	水圧×9.1 cm ²	91 kg
32A	水圧×14.3 cm ²	143 kg
40A	水圧×18.6 cm ²	186 kg
50A	水圧×28.7 cm ²	287 kg
65A	水圧×45.7 cm ²	457 kg
80A	水圧×62.4 cm ²	624 kg
100A	水圧×102.6 cm ²	1026 kg
125A	水圧×153.5 cm ²	1535 kg
150A	水圧×214.3 cm ²	2143 kg
200A	水圧×367.5 cm ²	3675 kg

②開放型配管ラインで使用下さい。

- 地震作動時に管内の体積が変動しますので、開放型の配管ラインで使用頂くか、管内の体積変動を逃がせる配管システムでご使用下さい。(膨張タンクの設置など)

※以上の留意点を参考の上、設置の検討をお願いします。